

漆液採集試驗第二回報告

樋口修平

本邦産漆液ニ就テハ已ニ第一回報告ニ於テ述ヘタルカ如ク成ルヘク良好ナル漆液ヲ多量ニ且安價ニ採集シ得テ以テ國內ノ缺乏ヲ充タシ進ンテハ支那漆其他ノ不良ナル漆ノ輸入ヲ防遏スルニアルカ故目下ノ急務ハ漆樹ヲ仕立テ、ヨリ成ルヘク早ク採漆シ且相當ナル利益ヲ得ラルヘキ方法ヲ見出スニアリ漆樹ハ植立テ、ヨリ少クトモ六七年間ノ生長セシメ六七寸ノ圍リトナリテ後初メテ採漆用樹トナシ得ルカ故先ツ此等ノ樹ニ行ヒ得ヘキ採集方法ヲ比較研究セサルヘカラス

而シテ前回ノ試験ニテハ極メテ小數ノ漆樹ニ就テ豫備的試験ヲナシタルニ過キサレハ之レヲ以テ十分ナル比較ト云フ事ヲ得ス殊ニ經濟的方面ヨリ觀察シテ以テ其優劣ヲ判定スルノ要アリトス故ニ今回ハ其試験ノ規模ヲ一層大ニシ實地ニ行ヒ得ルカ如キ條件ノ下ニ

採漆ノ難易、産漆量ノ多少、漆液ノ品位、採收費用ノ多寡、農事ト採集期トノ關係等ヲ比較セントス

(甲) 殺搔法ト鼓搔法トノ比較

(一) 試験地及試験

茨城栃木兩縣界附近ノ地方ハ古來ヨリ漆樹ノ生育ニ適スル地ト認メラレ現今ニ於テモ盛ニ栽培セラル、ヲ以テ此地方即チ茨城縣久慈郡上小川村栃原所在ノ小山田信藏氏所有ノ漆林ニ於テ採集試験ヲ行フ事トセリ而シテ其林地ハ谿谷ノ兩岸ヨリ直チニ起ル處ノ兩山腹ニ向テ一帯ニ擴カリ廣袤數町步樹數數千ヲ以テ數フヘキ一大漆林ナリ

此漆樹ハ栽植後略七ケ年間ヲ經タルモ未タ一回モ採漆セス爲メニ全林鬱葱トシテ枯損木少ナク到底他ニ類ヲ見サル良好ノモノナリトス

樹ノ太サハ少ナルハ周圍五寸位太キハ一尺二寸位ニ及ヒ普通ハ六寸—八寸ノモノ最モ多シ此林地ヲ溪流ニ依テ左右二部ニ區劃シ其各部ヲ上下二區ニ分チテ都合甲乙丙丁ノ四區トナシ各區ヨリ適當ナル試驗木百五十本ツ、合計六百本ヲ撰出シ其甲丁兩區ヲ鼓搔法ニ依テ乙丙兩區ヲ殺搔法ニ依テ採漆セシメタリ以上ノ如ク林地ノ區劃及試驗木ノ撰定ニ特別ノ注意ヲナセルハ兩方法ノ比較ヲナスニ試驗用樹及試驗地々勢ノ成ルヘク同様ナル事ヲ欲シタレハナリ而シテ各區ヨリ撰出セル樹ノ太サ及本數ハ左表ニ示スカ如シ

鼓搔法用樹			殺搔法用樹	
樹周	甲區 本數	丁區 本數	乙區 本數	丙區 本數
60 ^分	9	19	11	23
61	—	—	3	—
62	1	3	2	6
63	4	3	1	—
64	4	1	4	3
65	19	10	19	5
66	2	4	—	1
67	4	—	3	3
68	—	3	—	2
69	3	1	2	1
70	18	29	28	27
72	—	—	—	5
73	—	3	1	7
74	6	—	3	4
75	26	23	30	24
76	12	12	5	2
77	—	2	1	—
78	2	—	1	—
79	4	1	1	2
80	11	14	17	9
81	—	2	—	—
82	2	1	—	1
83	1	—	—	2
84	4	—	—	—
85	5	5	1	5
86	1	2	1	4
87	1	—	—	2
88	—	—	1	—
90	2	2	5	—
91	1	—	—	—
92	3	1	—	3
93	—	—	—	2
95	2	4	5	2
96	2	2	—	—
97	—	1	—	—
98	—	—	—	3
100	1	—	1	—
107	—	—	—	1
110	—	1	1	—
114	1	—	—	—
115	—	1	—	—
116	—	—	—	1
計	151	150	147	150 ^本

(二) 漆樹ノ太サト漆液分泌量トノ關係及試驗木ノ標準樹數

漆樹ハ其生育セル土地ノ狀態肥瘦乾燥等氣候樹ノ老幼繁茂ノ狀態等ニヨリテ分泌スル漆量一定セス例ヘハ瘦地ノ樹ハ如何ニ巨大ナリト雖モ其太サノ割合ニ漆液量少ク疎立シテ繁茂セル樹ニハ例令細シト雖モ比較的多量ナルヲ見ル而シテ一般ニ樹ノ大小ハ漆ノ分泌量ニ最モ大ナル關係アルモノナリ故ニ單ニ樹ノ本數ノミニ依テ漆量ノ買入ヲナシ又ハ漆林ヲ評價シタランニハ漆液ノ採集量ニ大ナル見込違ヒヲ生シ損失ヲ招クコト少カラサルヘシ本試驗ニ用ヒタル六百本ノ樹ハ前表ニ示セルカ如ク凡テ相異レ

ル太サナルカ故例令各區ヨリ成ルヘク同様ニ撰出シタリトスルモ尙漆液分泌ノ上ニ多少ノ不公平ナキヲ保シ難シ故ニ其樹質樹齡土地ノ狀態氣候其他ノ關係全ク同様ナルヘキ一ツノ漆林ニ就キテ各種ノ太サノ漆樹ヲ撰出シ其等ノ樹カ如何ナル割合ヲ以テ漆ヲ分泌スルカヲ試驗シ以テ樹ノ太サト漆液分泌量トノ關係ヲ知リ此關係ヲ試驗木ナル前述ノ四區六百本ノ樹ニ當テ其全本數カ幾本ノ標準木周圍六寸五分―七寸五分樹ニ相當スルカヲ知ラントス而シテ此試驗ニハ久慈郡朽原ノ山間南面セル砂礫多キ傾斜地ニ生育セル七年生ノ漆林(面積凡ソ二町步樹數千余漆樹ノ生長最良)ニ就テ此中ヨリ同シ太サノ樹二十本ツ、四種合計八十本ヲ撰出シ此ヲ殺搔法ニ依テ六月廿二日ヨリ十月卅日ニ至ル間採漆シタリ之ニ用ヒタル樹ノ太サハ

(イ)五寸―六寸ノモノ(樹周)

四寸二分	一本	五寸	六本
五寸二分	一本	五寸三分	一本
五寸四分	一本	五寸五分	三本
五寸六分	一本	六寸	六本
計	二〇本	一	

(ロ)七寸―八寸ノモノ

七寸	九本	七寸五分	六本
八寸	五本		

計 二〇本

(ハ)八寸―一尺ノモノ

八寸五分	七本	九寸	七本
------	----	----	----

九寸二分

一本

九寸五分

二本

一尺

二本

計

二〇本

(三)一尺―一尺二寸ノモノ

一尺

四本

一尺三分

三本

一尺五分

六本

一尺一寸

四本

一尺二寸

三本

計

二〇本

ニシテ此等ヨリ採收セル漆量ハ

樹 周

本數

産漆量

(一)五寸―六寸ノモノ

二〇本

五九五匁

(二)六寸―七寸ノモノ

同

七五六

(三)七寸―八寸ノモノ

同

九一七

(四)八寸―一尺ノモノ

同

一三六三

(五)一尺―一尺二寸ノモノ

同

二二七九

ナリ

右ノ内六寸―七寸ノ樹ハ不幸ニモ試験セラレサリシ故(二)ノ産漆量七五六匁ハ實際採集セル漆量ニ非スト雖モ該樹ノ太サハ(一)ト(三)トノ間ニアルコト明カニ且ツ太サノ差タル僅カニ一寸内外ナルヲ以テ(一)五九五匁ト(三)九一七匁トノ平均量七五六匁ヲ以テ前表ノ如ク六寸―七寸ノ樹二十本ノ漆量ト見做シタリ同様ノ理由ニヨリ六寸五分―七寸五分ノ樹二十本ノ漆量モ(二)七五六匁ト(三)九一七匁トノ平均量八四一

勿トセリ

而シテ此六寸五分―七寸五分ノ太サノ樹ハ七八年生ノ漆樹トシテ最モ普通ナルカ故此樹ノ産漆量八四一匁ヲ單位ニトリ其他ノ樹ノ産漆量ノ割合ヲ求ムレハ下ノ如シ

樹 周

産漆割合(産漆率)

六寸五分―七寸五分

一、〇〇

五寸―六寸

〇、七二

六寸―七寸

〇、八二

七寸―八寸

一、〇〇

八寸―一尺

一、六四

一尺―一尺二寸

二、七四

以上ノ試験ニヨリテ漆樹ノ太サハ其樹ノ産漆量ニ如何ナル關係ヲ有スルカヲ知ルヲ得シテ此産漆割合ハ單ニ茨城縣ノ漆樹ニ就テ調査シタルモノナリト雖モ樹周五寸―一尺二寸ノ範圍ニ於テハ何地ニ於テモ以上ノ割合ナリト云フモ大過ナカルヘシ

元來漆液ハ樹皮ノ内皮及形成層ノ斷面ニノミ分泌スルモノニシテ材部ヨリハ少シモ分泌セサルカ故漆液ノ産量ハ單ニ樹ノ表面積ノ大小即チ樹ノ周圍ニノミ關係スルカ如ク考ヘラル、モ以上ノ試験ニ因テ見レハ樹ノ太サ増スト共ニ漆液ノ産量著シク増加シ其増加スル割合ハ樹ノ太サ(周圍)ニ比例セスシテ樹ノ半徑ノ二乗ニ正比例スルヲ見ル

今左ニ各種ノ太サノ樹カ有スル半徑ノ二乗ヲ示シ次ニ樹周六寸五分―七寸五分ノ樹ノ半徑ノ二乗ナル一、二四四平方寸ヲ單位ニ採リ他ノ樹ノ夫レ等ト比較シタルモノ即半徑ノ二乗比ヲ示セハ(六寸五分ノ樹ハ七八年生ノ漆樹ニハ最モ普通ナリ)ルヲ以テ之レヲ單位ニ採リタリ)

半徑，二乘

半徑ノ二乗比

六寸五分—七寸五分

二二四

100

五寸—六寸

〇七六五

〇六二

六寸—七寸

一〇七

〇八六

七寸—八寸

一四二八

二五

八寸一尺

二〇四四

一六五

一尺一尺二寸

三〇六一

二、四八

ニシテ此半徑ノ二乗比ト前表ノ產漆率トヲ比スルニ大體ニ於テ可ナリ能ク一致シ居ルヲ見ン故ニ產漆率ハ半徑ノ二乗比ナリト云フモ可ナリ(樹周五寸——一尺二寸ノ範圍ニ於テ)故ニ漆樹ヲ評價スルニハ先ツ樹周ヲ知リ次ニ之ニ相當スル樹ノ半徑ヲ求メ其二乗ヲ基數トシテ以テ評價セハ大過ナカラシカ

而シテ六七年生ノ樹ニ周圍六寸五分―七寸五分ノモノ最モ普通ナルカ故此種ノモノヲ標準トシテ之ヲ本數ノ單位トセハ他ノ太サノ樹ノ本數ハ産漆率ニテ表シ得(即チ六寸五分―七寸ノモノヲ一トセハ五寸―六寸ノモノハ〇、七二、八寸―一尺ノモノハ一、六四、二尺―一尺二寸ノモノハ二、七四ニ當ルカ如シ)如此シテ定メタル漆樹本數ヲ標準樹本數ト名ク

本試験ニ使用セシ甲乙丙丁四區ノ漆樹六百本ハ太サ皆一樣ナラサルカ故前法ニ從テ其等ノ標準數ヲ計算スルコト下ノ如シ

甲	六 — 七 寸	樹 周 本 數 產 漆 率	鼓 搔 法	
	五 四 _本 〇、八 二	標 準 樹 數 四 四、二 八 _本		
乙	七 三 _本 〇、八 二	本 數 產 漆 率	殺 搔 法	
	五 九、八 六 _本	標 準 樹 數		

總計	地		地		地		地	
	合	計	合	計	合	計	合	計
三〇一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一
	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一	一五〇	一
三二二、六五	一五七、五三	二、七四	一五七、五三	二、七四	一五七、五三	二、七四	一五七、五三	二、七四
	一五七、五三	二、七四	一五七、五三	二、七四	一五七、五三	二、七四	一五七、五三	二、七四
二九七	一五〇	二	一五〇	二	一五〇	二	一五〇	二
	一五〇	二	一五〇	二	一五〇	二	一五〇	二
三二一、九二	一六一、四六	五、五八	一六一、四六	五、五八	一六一、四六	五、五八	一六一、四六	五、五八
	一六一、四六	五、五八	一六一、四六	五、五八	一六一、四六	五、五八	一六一、四六	五、五八

(三) 一人搔キ山ノ漆樹本數

漆液ヲ經濟的ニ採集スルニハ普通一人搔キ山ト稱シテ或ル一區域内ニ所要ノ漆樹數百本ヲ撰定シ一人ノ職工ヲシテ之ヲヨリ漆液ヲ採集セシム而シテ採集技能ノ巧拙、樹ノ大小、殊ニ區域ノ廣狹、地勢ノ便否、採集方法ノ如何等ハ採漆上ノ難易ニ大關係アルモノナレハ一人搔キ山ノ漆樹本數モ從テ一定セルモノニ非ス然レトモ普通畑地又ハ山間等ニ群生セル漆樹林ニアリテハ胸高周圍六寸五分―七寸五分ノモノ(七八年生ノモノ)八百本ヲ以テ殺搔法ノ一人搔キ山即チ一人分トス而シテ之ヨリ採漆スルニハ先ツ此八百本ヲ四區ニ分チ其一區即チ二百本ツ、ヲ毎日採漆シテ四日間ニシテ全部ノ採漆ヲ濟マシ五日目ニハ更ニ前ノ二百本ニ戻リテ第二回ノ採集ヲ行フモノトス而テ六月上旬ヨリ七八月ノ頃ニ於テハ樹ノ生育盛ナルガ故漆ノ分泌量可ナリ多量ナリト雖モ日中ノ時間又長クシテ寧ロ仕事ニ餘裕アル位ナリサレトモ九月ヨリ以後ハ日中ノ時間短クシテ一日ニ二百本ヲ採漆スルコト容易ナラス故ニ此等ノ點ヨリ日ニ二百本ツ、即チ總本數八百本ヲ以テ殺搔法ノ一人搔キ山トシテ極メテ普通ノモノトス

鼓搔法ニアリテハ樹幹ノ採漆傷數所前法ニ比シ遙カニ多クシテ前者ノ九箇處—十箇處ナルニ對シ十三、四箇處ヲ附クルヲ普通トシ爲メニ每樹ノ採集ニ可ナリノ手數ヲ要シ殺搔法ノ如ク一日ニ二百本ヲ搔クコト到底不可能ニシテ今回ノ試驗ニヨレハ日ニ百五十本ツ、採漆スルヲ以テ尤モ至當ナリト認メタリ即チ四日分六百本ヲ以テ鼓搔法ノ一人搔キ山トセリ

(四) 漆液採集量及採集日數

前述ノ如ク試驗地ヲ甲乙丙丁ノ四區ニ區分シ乙丙二區(三百本)ハ殺搔法ニ依テ漆液採集ヲ行ヒ六月十七日ヨリ着手シテ十月五日迄テ邊漆ヲ採集シ次ニ裏目漆留漆等ヲ採集シテ十一月上旬ニ採集ヲ了レリ甲丁兩區(三百本)ハ鼓搔法ニヨリテ六月二十五日ヨリ漆液採集ニ着手シ八月下旬迄テ最モ主要ナル處ノ邊漆ヲ採集シ之レヨリ直チニ裏目漆留漆等ヲ採集シ九月下旬—十月月上旬ニ採集ヲ了レリ而シテ採集日及ヒ產漆量ハ下表ノ如シ

採 收 月 日	天 候	殺 掻 法 採 收 量		鼓 掻 法 採 收 量	
		乙 地	丙 地	甲	丁 地
6 17		<u>邊付ヶ</u>			
19	雨		<u>邊付ヶ</u>		
21		20 ^々	20 ^々		
23					
25		60		<u>邊付ヶ</u>	
27	雨雨		50		<u>邊付ヶ</u>
29		60			
7 1			100	20 ^々	
3	半晴	185			30 ^々
5			140	100	
7		225			120
9			185	215	-
11	雨雨				235
13	雨雨				
15	半晴	155		215	
17			200		300
19		330		320	
21			220		300
23		240		240	
25			255		355
27		260		250	
29			210		280
31		260		340	
8 2			230		330
4		250		270	
6			230		330
8		260		330	
10			210		320
12		260		260	
14			255		250
16	半晴	180		240	
18			220		240
20		230		250	
22			240		240
24	雨雨				
26	半晴	50		150	
28	半晴		90		240
30		250		250	
9 1			250	230	
3		255		250	
5			250	240	
7		255		220	
9			240	250	
11		255		240	
13			200	200	
15		200		200	
17			140	105	
19				150	
21		130		140	
23			110	150	
25	半晴	70		125	
27			130	150	
29		120		140	
10 1			110	—	
3		90		—	
5			90		
7				85	
9		157		95	
11	雨	144			
13	雨	163			
15		140			
17		150			
19		145			
21		130			
23		140			
25		126			
27		126			
29		117			
31		117			
11 2		100			
4		113			
6		104			
		100			
		—			
合計		11275 ^々		9970 ^々	

而シテ此總產額ノ一ハ標準樹三百十二本餘ヨリ他ハ三百十一本餘ヨリ生セシモノナルヲ以テ各一本ヨリ產セル量ヲ示セハ

	邊漆	裏目漆	留漆	枝漆	合計
殺搔法	二八、九 ^々	四、二	二、四	〇、六	三六、一
鼓搔法	二二、三	五、二	三、七	〇、六	三一、九

ニシテ一期間ニ產スル漆量ハ殺搔法遙ニ多量ナリサレトモ之ニ要スル採集期間ノ日數相同シカラス即チ第一回報告ニモ述ヘシ如ク一人搔キ山ヲ完了スルニ要スル日數ハ殺搔法ニアリテハ六月中旬ヨリ十月中旬迄テ畧百八十日間鼓搔法ニアリテハ六月下旬ヨリ十月中旬迄テ百六日間ナルヲ以テ一本ノ漆樹數ヨリ毎日採集セラルヘキ漆量ハ

殺搔法

〇二〇〇七^々

鼓搔法

〇三〇九五

斯クノ如ク毎日一本ノ樹ヨリ採集セラルヘキ漆量ハ鼓搔法ノモノ非常ニ多クシテ殺搔法ノモノ少量ナリ而シテ此兩方法ヲ比較スルニ以上ノ事實ノミニテハ未タ十分ナラス鼓搔法ニヨルモノハ例令其日々ノ產額多シトスルモ採集スルニ多クノ手數ヲ要シ殺搔法ニ於テ漆樹二百本ヲ採漆シ得ル間ニ僅ニ百五十本ヲ採漆シ得ルノミナルヲ以テ兩方法ヲ比較スルニハ以上ノ諸項ヲ基礎トシテ尙ホ其漆液品位及ヒ經濟的關係ヲモ併セテ調査スルヲ要ス

(五) 漆液ノ品位

生漆中ニ含有セラル、成分ハ水分漆酸、護膜質、含窒素物及ヒ塵埃等ニシテ此等ノ各成分ノ諸性質及ヒ漆地トノ關係等ハ已ニ第一回ノ試驗ニ述ヘタリ而シテ其等ノ分析方法及ヒ試驗方法モ己ニ詳述シタノハ今

此ニ其分析ノ結果ヲ示サント欲ス即チ

生 漆 分 析 表								無水物ニ換算セルモノ		
	採收方法	水 分	漆 酸	護膜質	含窒素物	合 計		漆 酸	護膜質	含窒素物
初漆	殺	27.84	62.25	6.35	3.60	100.04		86.12	8.80	4.99
	鼓	27.84	62.25	6.35	3.60	100.40		86.12	8.80	4.99
盛漆	殺	23.21	67.25	7.40	1.75	99.61		87.50	9.65	2.88
	鼓	20.82	70.11	7.25	2.20	100.38		38.20	9.10	2.76
末漆	殺	27.18	64.05	7.17	1.58	100.00		88.10	9.90	2.07
裏目漆	殺	21.81	68.30	7.01	2.47	99.57		88.00	9.67	2.29
	鼓	19.75	72.00	6.10	1.78	99.63		90.20	7.64	2.25
留漆	殺	22.70	63.82	9.74	4.06	100.32		82.20	12.55	5.22
	鼓	22.56	64.78	10.29	1.83	99.46		84.30	13.40	2.33
枝	殺	18.80	69.00	9.60	3.21	100.61		84.50	11.75	3.92
漆	鼓	21.99	66.55	9.52	1.34	99.40		85.80	12.60	1.73

以上ノ分析表ニ據ルニ鼓搔法ニヨルモノ水分少量ニシテ漆酸量多ク殺搔法ニヨルモノニ優レルカ如シ
又此等ヲ硝子面ニ塗布シテ其乾燥力及透明度等ヲ比較セルニ

透 明 度	乾 燥 力
-------	-------

此ニ據テ見レハ兩者概シテ大差ナシサレトモ鼓搔法ニヨルモノ分拆ノ結果良好ナルヲ以テ鼓搔法ニヨ
ル漆ヨリ其品位優良ナルコトヲ認メ得可シ

(六) 結論

採集方法ノ比較ヲ爲スニ當リテハ先ツ何レノ方法ハ何程ノ利アルカヲ定メサルヘカラス而シテ何ノ方
法ニヨルモ其樹價ト採集費トハ極メテ多額ヲ要シ收入金額ノ殆ント九割餘ヲ占ムルヲ常トスルカ故先
ツ此等ノ採集費用ヲ委細ニ調査シ採集漆液ノ價格ト比較シテ以テ其損益ノ程度ヲ究ムルヲ要ス
抑モ樹價ハ其老幼大小ノミナラス地勢ノ便否ニヨリテ大差アリ例ヘハ各處ニ散在孤立セルモノハ例令
能ク繁茂シ居ルト雖モ一人搔キ場所ヲ定ムルニ富リ區域徒ラニ廣クシテ從テ採集ニ時間ヲ消費シ從テ
漆液採集量僅少ナルカ爲メ其費用ヲモ償ヒ得サルコトアリ如此漆樹ハ採漆用樹トシテハ價值ナキモノ
トス

現今採集ニ供セラルヘキ樹ハ普通七八年生即チ目通六寸以上ノモノニシテ多クハ畑地ノ周圍又ハ河畔
堤防上及山麓等ニ栽培群生スルモノニシテ其賣買價格ハ樹周六寸―八寸ノモノ一本ニ就キ七八錢ヲ普
通トス(樹ノ太サ増スニ從テ漆液產量モ著シク増加スルカ故樹價モ其割ニ高價ナルヘキナリ)

枝 漆	留 漆	裏 目 漆	末 漆	盛 漆	初 漆	
C	C	A	A	A	B	殺搔法
C	D	A		A	B	鼓搔法
D	C	D	E	E	A	殺搔法
C	B	D		E	A	鼓搔法

殺搔法ニアリテハ八百本ヲ一人搔キ山トスルカ故一本ノ價平均七錢ツ、トシテ總樹價五十六圓ナリ鼓搔法ニアリテハ六百本ナルカ故總樹價四十八圓トス此等ノ樹ヨリ採集ニ要スル經費ハ年ニヨリテ又場所ニヨリテ一定セス殊ニ採漆職工ノ賃金ハ其技能如何ニヨリテ大差アルモノナレハ一概ニ云フヲ得スト雖モ今左ニ最モ普通ナル場合ヲ以テ採集ニ要スル諸經費ヲ示サハ次ノ如シ

職工ハ殺搔法ニ依テ八百本ヲ採漆シ得ル技能アルモノトシ職工ノ消費セシ食物其他ノ雜費ハ三十八年ヨリ四十年ニ於ケル平均トス

一人搔キ漆山ノ經費

殺搔法

一人持チ樹數八百本
採集期間 百八十日間

一、漆搔職工給料

六〇、〇〇

一、米、代(一日六合五勺シヅ)

二三、四〇(一石一斗七升)

一、味噌代(一日三十五匁ツ、ハトシテ)

二、七三六匁三百匁代)

一、草鞋代(一足一錢二厘トシテ)

〇、五四(四十五足代)

一、副食物代(一日ニ一錢二厘ヅ、)

二、一六

一、夜具借入賃

二、七〇

一、家賃

三、五〇

一、雜費

三、〇〇

一、漆樹買入費

一一、〇〇(八百本代)

小計

一〇八、六三

一、樹代(太サ六寸五分一七寸五分ノモノ一本ニ付七錢五厘トシテ)

六〇、〇〇

總計

一六八、六三

(以上ハ三斗八升ノ状況ニヨリ一人ノ差アラシク諸費用平均セルモノトス)

之レ殺搔法ヲ行フニ當リ百八十日間ヲ一期トセル諸費用ナリ今此費用ト鼓搔法トヲ比較スルニ後者ハ採集日數極メテ短ク百六日ニ過キサレハ諸費用モ皆之レニ準シテ少額ナリ因ニ此割合ヲ以テ鼓搔法ノ諸費ヲ算出セハ

鼓搔法

(一人持チ六百本日間)

職工給料

三五、三三

米代(同上)

一三、七八六斗八升九合代

味噌代(同上)

一、六一(七貫七百十匁代)

草鞋代(同上)

〇、三二(二十七足代)

副食物代(同上)

一、二七

夜具借入賃

一、五九

家賃

二、〇六

雜費

一、七六

漆樹買入費

八、二八(六百本)

小計

六六、〇〇

樹價(同上)

四五、〇〇

總計

一一一、〇〇

是等ノ費用ヲ支拂ヒテ得ラル可キ漆液總量ハ前章ノ採集試驗表ニ據リテ算出セハ(殺搔法ニアリテハ一本ニ付キ採漆量三六三鼓搔法ニアリテハ三一匁八八ナリ)下ノ如シ

殺搔法

二八、九〇(一人搔八百本分)

鼓搔法

二九、一三(一人搔六百本分)

ニシテ此等ノ漆液ハ產地ノ異ナルニ從ツテ品質ニ多少ノ差異アルカ故其價格モ亦一定セスト雖モ殺搔法ニ依ルモノハ山元ニ於テ十貫目ニ付キ五拾五圓―六拾五圓ヲ普通トス又鼓搔法ニ依ルモノハ採集時期盛夏ノ候ヲ主トスルカ故其品質概シテ良好ナルヲ以テ其價格モ前者ニ比シ上値ナルヘキモ未タ此種ノ漆ノ賣品ナキヲ以テ幾何ノ價ヲ有スルカハ詳ナラサルモ一貫目ニ就キ三拾錢―六拾錢位上値ト見レハ大過ナカルヘシ

依テ以上ノ價格ニヨリ一人搔キ漆量ノ總價ヲ示セハ

殺搔法

一七三、四〇(一貫目六圓ノ割)

鼓搔法

一二二、四三(一貫目六圓四拾錢ノ割)

採漆後ノ廢木ハ多少ノ價值アリ(普通薪材トシテ一本三厘―八厘ト雖モ伐採費運搬費等ヲ見ハ差シタル利益ナキヲ以テ省畧ス而シテ以上ノ收入ヨリ採集費用ヲ差引キタル純利ハ

殺搔法

四七七

鼓搔法

一一、四三

ニシテ利益ハ鼓搔法ニ依ルモノ遙ニ多キヲ見ル加フルニ此ノ法ハ採集期間他方法ノ如ク長期ナラス六月下旬即チ春蠶稻ノ植付ケ及ヒ麥ノ收穫等漸ク了ヘテ農業ノ稍閑散トナレル頃ヨリ追々採漆ニ着手シテ稻刈リ麥蒔キ等秋ノ收穫期ニ入ラサル前ニ之レヲ了ルカ故農事ニ餘リ障礙ヲ來サ、レハ職工ヲ雇入ルハニ極メテ好都合ナルヘク當該地方ニ於ケル採漆ニ心得アル者ヲ雇入ルハニ最モ便利ナルヘシ若シ然ラハ前條ヨリモ一層ノ薄給ニテ採漆セシメ得ヘシ

故此鼓搔法ハ例令一本ヨリノ產漆量少量ナリト雖モ利益ニ於テ多少優リ且ツ前述ノ如ク農隙ヲ利用シ得ラルハ故農家ノ副業トシテ殺搔法ニ優ルモノナリトス而シテ農家カ此便益アル採集方法ヲ知リテ盛

ニ漆樹ノ栽培ヲ勉メ各自ニ採漆シタランニハ(現今慣行ノ如ク福井縣ヨリ職工ヲ雇入レスシテ)例令一本ヨリノ採漆量ハ殺搔法ニ比シ少量ナリトスルモ國中ノ漆液產額ヲ増加スヘキコト期シテ俟ツヘシ

乙 養成搔法ト三年養成搔法ノ比較

(イ)試驗樹ノ狀態及漆液採收量

明治三十九年度神奈川縣秦野村ニ於テ試驗セル五十本ノ漆樹ニ就キ四十年度ニ於テ第二回ノ採集試驗ヲ行ヒタリ第一回試驗ニ際シテハ樹ノ發達ニ注意シタリト雖モ猶樹皮ニ少ナカラサル搔傷ヲ與ヘタル爲メ其樹ノ勢力並ニ生長ニ大ナル障害ヲ起コシ枝葉凋萎シテ最早前回ノ如キ盛ナル俤ナク僅ニ生活シ居ルニ過キス殊ニ養成搔ヲ行ヒタル樹ハ余リニ若クシテ細カリシカ爲メ其衰弱一層甚タシク葉ノ大サハ前年度ノ三分ノ一ニ過キス然レトモ兩者共ニ樹ノ太サハ前回ニ比シ多少増長セリ即チ左ノ如シ

樹周	養成搔 本數	三年養成搔 本數
51	1	2
52	1	3
53	1	2
54	1	1
55	4	
56	1	
57		
58	1	
59	1	
60	3	
61	1	
62	1	1
63		
64	1	1
65		1
66	1	2
70	3	
71	1	
72	1	
76		1
78	1	2
79	1	1
80		1
81		1
82		
86		1
38		1
90		
92		1
94		1
198		1
114		1
計	25本	25本

而シテ之レヲ樹周六寸五分―七寸五分ノモノヲ標準ニ採リタル標準樹數ニテ表セハ

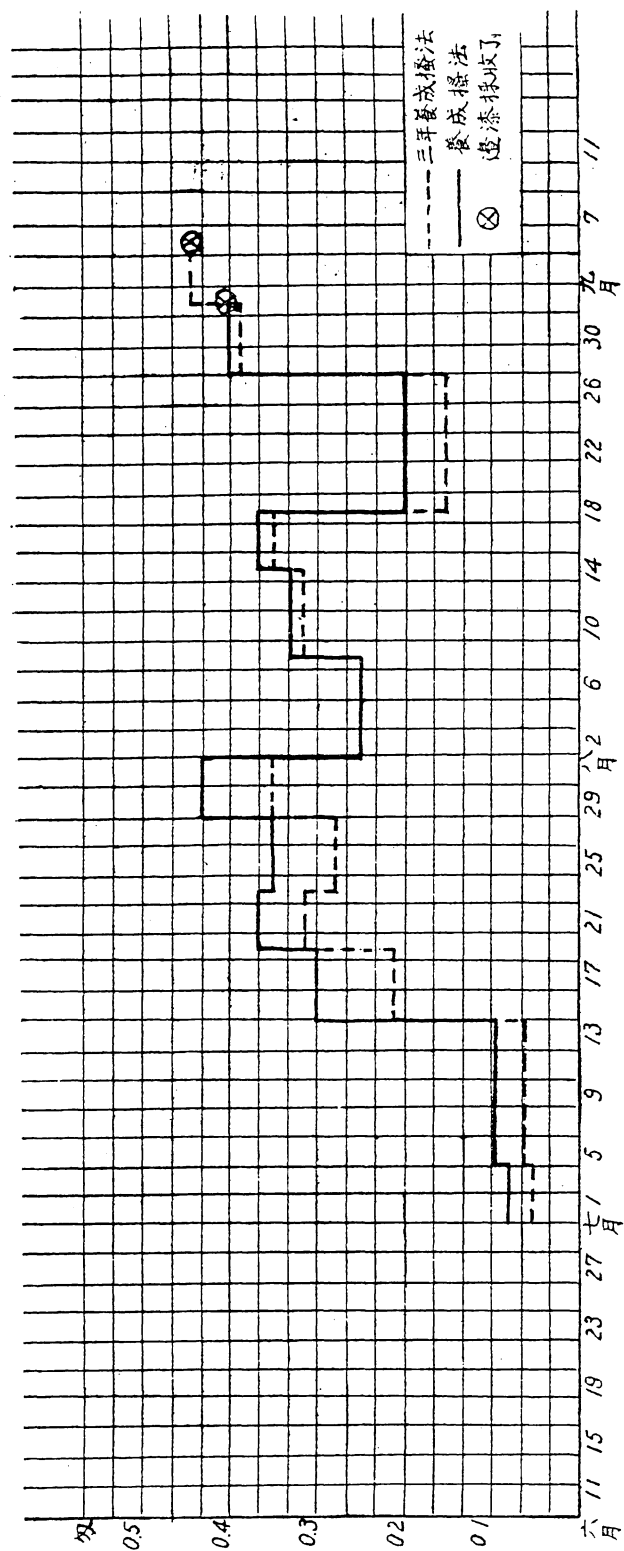
樹周	本數	產漆率	標準樹數	三年養成搔 本數	產漆率	標準樹數
五―六寸	一四	〇、七二	一〇、〇八	八	〇、七二	五、七六
六―七寸	七	〇、八二	五、七四	五	〇、八二	四、一〇

七 八 一 八 寸	八 一 一 尺	一 尺 一 尺 二 寸	合 計
廿五	四	一、一〇	二〇、二二
二五	一七四	一、一〇	二、七四
二八、四八	四、四〇	一、六四	二、七四
二八、四八	四、四〇	一、六四	二、七四
二八、四八	四、四〇	一、六四	二、七四

ニシテ前回ニ比シ養成掻法ニ二本三年養成掻法ニ約五本ヲ増加シタリ如此三年養成掻法ニ五本ノ増
加樹ノ生長ヲ示スアルニ拘ハラス養成掻法ノモノハ僅ニ二本ノ増加ニ過キササルハ採漆ニ用ヒシ樹ハ
此方法ヲ施行スルニ餘リニ若クシテ且ジ細ク爲メニ其發育著ク害セラレタルモノナランカ
而シテ此等ノ樹ヨリ採集セラレタル漆液ノ量及ヒ之ヲ標準樹一本ニ割リ當テタル產量ハ次ノ如シ

養成掻法			三年養成掻法		
採 收 月 日	採集量	標準樹 一本ノ 産量	採 收 月 日	採集量	標準樹 一本ノ 産量
7, 1	—	—	7, 1	—	—
" 5	7	0,34	" 5	7	0,24
" 15	18	0,89	" 15	19	0,67
" 20	30	1,48	" 20	30	1,05
" 24	30	1,48	" 24	35	1,23
" 29	35	1,73	" 29	40	1,40
小 計	120	5,92	小 計	131	4,59
8, 2	35	1,73	8, 2	40	1,40
" 9	35	1,73	" 9	50	1,75
" 15	40	1,98	" 15	55	1,93
" 19	30	1,48	" 19	40	1,40
" 28	35	1,73	" 28	45	1,58
9, 2	40	1,98	9, 2	55	1,93
小 計	215	10,63	" 6	50	1,75
合 計	335	16,5	小 計	335	11,74
			合 計	466	16,23

此ニ依テ見ルニ一般ニ產量著シク減シテ何レモ前回ノ半量ニ過キササルヲ見ル而シテ三年養成掻法ノ
減量殊ニ甚タシク前年ハ養成掻法ヨリ一本ニ對スル收量多カリシト雖モ今回ハ遙ニ少量トナレリ此



ノ樹ノ衰弱甚シキニ依ルナラシカ

(ロ) 掻液ノ品位及ヒ結論

此等ノ生漆ノ品位ハ前回ノ試験ニ於テ已ニ知レルガ如ク三年養成掻法稍良好ナリシト雖モ今左ニ今回ノモノ、分析及ヒ試験成績ヲ示セク

生 漆 分 析 法							無水物ニ換算セルモノ		
	採方 収法	水 分	漆 酸	護 謨 質	含窒素物	計	揮 液	護 謨	含窒素物
初	養	11,60	77,90	8,25	2,31	100,06	88,15	9,33	2,61
漆	三養	11,48	78,01	8,19	23,2	100,00	88,12	9,25	2,62
盛	養	9,17	81,90	5,80	2,76	99,63	90,50	6,42	3,05
漆	三養	10,85	80,30	6,20	2,29	99,64	90,50	6,92	2,53

次ニ硝子面ニ塗布シテ乾燥力及ヒ透明度ヲ見タルニ次ノ如シ

乾燥力試験

初漆

盛漆

養成掻法

A

B

三年養成掻法

A

C

ニシテ三年養成掻法)ノモノ概シテ乾燥力弱シ

透明度

初漆

盛漆

養成掻法

乙

甲

三年養成掻法

乙

甲

透明度ニ至テハ兩方法ノモノ殆ント同等ニシテ優劣ヲ見出ス能ハス
次ニ標準樹一本ヨリ得ラレタル一期間ノ漆酸總量ハ

初漆

盛漆

合計

養成搔法

四、五、六

八、七、〇

一三、二六

三年養成搔法

三、五、〇

九、四、〇

一二、九、〇

ニシテ何レモ前回ノ量ヨリ少ク三年養成搔法ニ依ルモノ殊ニ甚タシトス而シテ採集ニ要セシ經過日數及ヒ回数ハ

經過日數

回数

養成搔法

六四

一二

三年養成搔法

六八

一二

ニシテ標準樹一本ニ就キ毎日及ヒ毎回ノ平均漆酸產量ハ下ノ如シ

標準樹一本一日
ニ採集ノ漆酸量(本回)

標準樹一本一日
ニ採集ノ漆酸量(前回)

養成搔法

〇、二〇七

〇、二六八

三年養成搔法

〇、一九〇

〇、三〇九

標準樹一本一回
ノ採集漆酸量(本回)

標準樹一本一回
ノ採集漆酸量(前回)

養成搔法

一、一〇五

一、一六

三年養成搔法

一、〇〇五

一、三九

トナリ前年ノ產量ニ比シ如何ニ減少セルカハ明瞭ナラン而シテ此第二回試驗ニテハ三年養成搔法ニ依ルモノ多少養生搔法ヨリモ劣レルカ如シ
而シテ此試驗タルヤ未タ僅ニ二回ニ過キス殊ニ此ニ用ヒシ漆樹ハ七八年生ノ樹ニシテ殺搔法等ニハ

適當ナリト雖モ養生搔法ニハ不適當ナレハ以上ノ試験ヲ以テ十分ニ可否ヲ比較判定スルコト能ハス故ニ此等ノ試験ハ單ニ豫備試験ト見做シテ後日適當ナル巨木ニ就キテ此方法ヲ行ヒ以テ兩方法ノ優劣ヲ定メント欲ス

(丙) 漆樹ノ樹皮壓搾採漆試驗

漆液ノ普通採集法ハ前章ニモ述ヘタルカ如ク極メテ手數ヲ要シ從テ採集費高ムヲ以テ何等カノ特別ナル採漆法ヲ按出シ務メテ容易ニ採集シタランニハ利益モ亦從テ多カルヘキカ故漆樹ノ樹皮壓搾試驗ヲ行ヒタリ試驗木ハ上野公園美術協會庭園内ノ十四年生ノモノニシテ周圍三尺五寸高サ六間ニ達スル巨木ナリ極メテ能ク繁茂シ十月ノ候ニ於テモ尙ホバニ樹液ノ湧出スルヲ見タリ之レヲ伐採シ其幹部ノ樹皮ヲ剝キ取リテ試験ニ供セリ此樹ハ根株ニ近キ部分ニハ死皮多キヲ以テ地上四尺位ノ處ノ樹皮ヲ小刀ニテ傷ケ巾五分位ノ帶狀ヲ爲ス様ニ剝キ取りタリ(縦ニ傷クレハ樹脂管ハ少シモ切斷サレス爲ニ漆液分泌セサルヲ以テ必ス傷ヲ横ニ入レサルヘカラス)元來漆樹ノ皮ハ極メテ軟カニ且ツ脆キモノニシテ之レヲ剝キ取ルコト容易ナラス是非材部ト皮トノ間ニ小刀ヲ挿入シ之レヲ起コシテ樹皮ヲ採集セサルヘカラス此ノ如クシテ材部ノ重量十貫目ニ對シ樹皮一貫目ヲ得タリ而シテ此樹皮内ノ漆液含有量ヲ計算センカ爲メニ略二十瓦ノ樹皮ヲ細斷シテ脂肪浸出器ニ入レ酒精ヲ以テ之レヲ浸出シ其中ニ含有セラル、漆酸量不純ノモノニシテ樹皮中ノ酒精ニ溶解ヘスキ諸物質ヲ含有スヲ計リシニ樹皮一〇〇ニ對シ五、五ヲ得タリ如此ク漆酸ノ含量僅少ナルカ故壓搾器ヲ使用スルモ搾出ノ見込ミ無カルヘキモ或ハ他ノ水分樹液等ト相混シテ搾出スルコトモ保シ難ケレハ此生皮ヲ直ニ壓搾器ニ入レ壓搾ヲ試ミタリシニ少量ノ滲出ヲモ見ス依テ此皮ヲ取り出シ小刀ニテ切斷シ之ヲ檢セルニ樹脂管中ノ漆液ハ依然トシテ源ノ如ク少シモ壓搾セラレタル模様ナシ故ニ此ヲ壓搾壺ヨリ取り出シ四〇%ノ工業用酒精ヲ多量ニ用ヒテ樹皮中ノ漆酸

ヲ再三再四浸出セル後其樹皮ヲ再ヒ壓搾器ニ掛ケタルニ酒精、水、樹液等ノ混合セル泥狀液ヲ得タリ之ヲ前ノ浸出液ト混シテ其中ニ含メル漆酸量ヲ檢セルニ

十貫目ノ皮ヨリ僅ニ五匁餘ヲ得タルニ過キス

又其搾出後ノ皮片ノ樹脂管中ニハ尙ホ漆液ノ多量依然トシテ存在セリ之ニ據テ見レハ壓搾法ニ依リ採漆スルコトハ望ミナキノミナラス且ツ其樹皮ヲ剝キ取ル職工ハ十分漆毒ニ堪ユル者ト雖モ之ヲ取扱フ間ニ於テ漆液ノ皮膚ニ附着スルノ場合多キカ爲メニ其局部ハ漸々害毒ヲ受ケテ遂ニ其業ニ堪ヘサルニ至ルコトアリ故ニ此方法ハ到底實行ノ見込成立セサルモノトス